

沼津市戸田造船郷土資料博物館は、幕末におけるロシア船「ディアナ号」の遭難を受け、戸田において建造された日本初の近代的洋式帆船「ヘダ号」や、建造過程で培われた友好交流の歴史などを後世に継承するため、昭和44年に開館されました。



▲近代化産業遺産認定されたヘダ号模型

沼津市戸田造船郷土資料博物館移転整備基本構想（案）は、築後55年を経過した博物館を将来にわたり継承するため、移転整備についての基本理念や基本方針を示したものです。

その構想（案）について、文教産業委員会にて報告がありましたので、お知らせします。

沼津市戸田造船郷土資料博物館移転整備基本構想（案）の概要

基本理念

日本の近代造船の発展に寄与したヘダ号建造と、戸田とロシアの友好交流の歴史を継承する博物館

日本の近代造船の礎となった洋式帆船「ヘダ号」を、ロシア人と協力し合って建造した史実や携わった人々の活躍、建造によって培われた友好交流の歴史を中心に、貴重な歴史資料及び民俗資料等を展示・紹介することにより、郷土の誇りとして顕彰するとともに、市内外の人々に情報発信し、後世に引き継ぐ博物館とする。

基本方針

(1) 戸田地区の歴史・民俗資料の収集・保管と、次世代への継承

- ・ 戸田地区の宝として残る資料の保存
- ・ 日露交流の歴史の継承

(2) 戸田地区の歴史に対する認識を高め、理解を深める場

- ・ 学校教育との連携
- ・ 生涯学習や歴史研究の支援
- ・ 体験型プログラムの充実

(3) 戸田地区に残る資料の調査研究と、得られた情報の発信

- ・ 民俗資料、歴史資料の調査研究と展示活動
- ・ 歴史、日露友好交流の情報の発信

(4) 地域内資源との連携・協調

- ・ 関連する歴史資源との連携強化
- ・ 地域の回遊性を図り、相乗効果によるさらなる魅力づくりへの寄与



▲現在の沼津市戸田造船郷土資料博物館。施設の老朽化が著しく、耐震性に劣る。

今後のスケジュール

- R6.7.23 ~ 8.22
パブリック・コメントの実施
- R6. 9月中旬
パブリック・コメントの結果公表
パブリック・コメントはこちら▶ 
- R6.10月～
移転整備基本計画策定
- 令和7年度
基本設計
- 令和8年度
実施設計・建築着手
- 令和9年度
建築・移転



沼津市戸田造船郷土資料博物館 移転整備基本構想（案）について

文教産業委員会での質疑

問 現施設には駿河湾深海生物館も併設されており、来館者は、生物館へも来館している。利用者数の増加には、生物館の移転整備も併せて検討することが効果的と考えるが、その認識は。

答 深海生物は、戸田地区の重要な構成要素の一つであり、一定の集客力もあることから、駿河湾深海生物館も併せて移転する方向で調整していく。



▲御浜岬と沼津市戸田造船郷土資料博物館。この区域は津波災害警戒区域（イエローゾーン）に指定された。